

最終報告書

近年、気候変動に伴い水災害リスクが増大する中、流域に関わる多様な関係者が協働し、ハード・ソフト両面で対策を進める「流域治水」の重要性が高まっています。富山県富山市を活動拠点とする流域ぷらっとフォームは、2020 年より神通川を中心に流域治水に関する活動を実施してきました。本活動では流域治水対策を講じるうえで必要な異なるセクターの認識を収集するため、多様なステークホルダーと共に流域治水対策の共創を推進することを目的としたシンポジウムを主催しています。2025 年度は公益財団法人旭酒造記念財団様よりご支援いただいた活動助成金により、以下の活動を実施いたしましたので報告させていただきます。

【開催レポート】流域ぷらっとフォーラム 2025 ～水とくらしは、どうつながってる？みんなの流域じまん～

開催概要

日時：2025 年 7 月 26 日（土）
会場：富山市 ユウタウン総曲輪・ウエストプラザ
主催：一般社団法人流域ぷらっとフォーム
共催：富山市、富山県立大学
後援：富山県、国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所
環境省中部地方環境事務所、富山市教育委員会
参加人数：100 人程度（一般来訪者）



今年のコンセプトは「祭り」

2025 年の夏も、渇水や線状降水帯といったニュースが各地で相次ぎました。未来が予測できない今だからこそ、「流域」という視点で暮らしをとらえ直し、多様な立場の人と共に考えることが大切です。とはいえ、「多様な立場の人」が本当に参加したい！と思える場づくりは、簡単ではありません。そこで、今年のテーマは「祭り」としました。準備から片づけまで、みんなで楽しみながら活動을表現する。そして、そのにぎわいに惹かれて関心を持った人が自然に混ざりあえる——そんな場をめざしました。副題に掲げたのは「みんなの流域じまん」です。活動している人が自分の取り組みを表現でき、互いに応援し合える関係を育むために、初の試みとして「わかもの流域じまんコンテスト」も実施しました。さらに「だれでも参加できるように」という思いから、会場には市民が日常的に訪れる商業施設・ユウタウン総曲輪を選びました。

活動①：科学者による流域漫談

専門的な話も、立ち止まって気軽に聞けるように、こども縁日を楽しむ親御さんが耳を傾けたり、散歩の途中で立ち寄った方も楽しめるように、大学教員コンビ 3 組が 10 分間の漫談形式で 3 つのテーマ、「米×雨水」「上下流はなぜどのようにつながっている?」「世界の治水・日本の治水」を紹介しました。会場からの声も交えながら、普段はなかなか考えないテーマに触れるきっかけになったと思います。



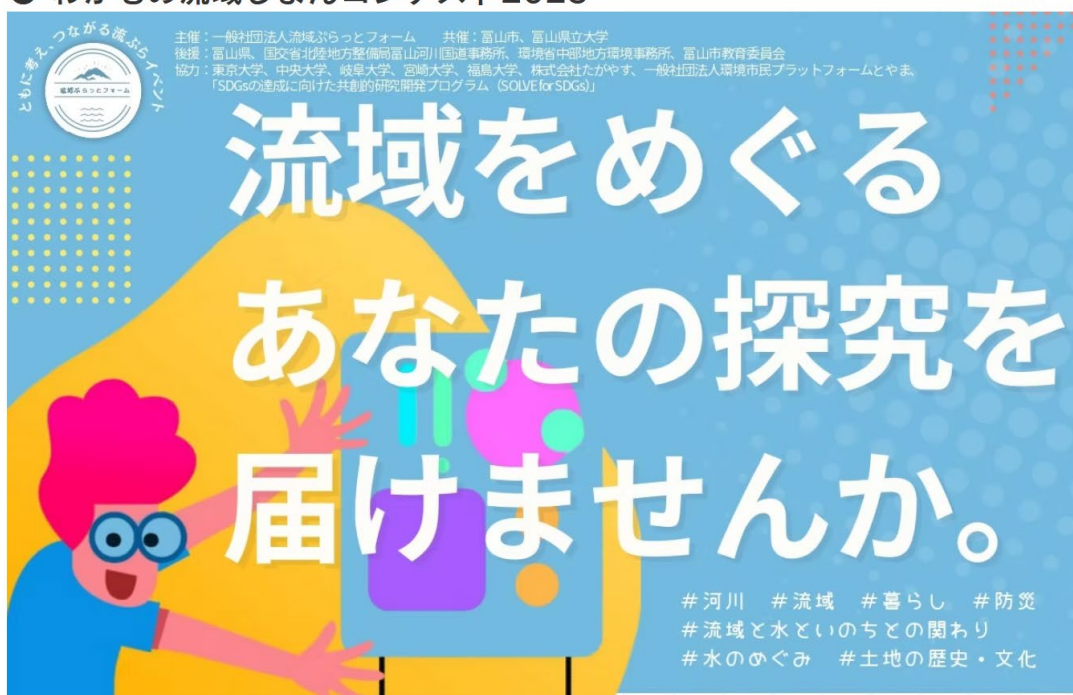
写真：流域漫談の様子

活動②：わかもの流域じまんコンテスト 2025

流域や防災、環境、水と暮らしなどをキーワードに活動している“わかもの”の成果

を発表するコンテストを実施しました。福島・宮崎・富山・岐阜・東京など、全国から6組がプレゼン、6組がポスターで参加いただきました。文化祭で劇にしたり、地域のひとと芋煮会を開いたり、現場での体験から生まれた知恵や工夫が詰まった発表でした。互いの活動を知り合い、エールを送り合える場になったと思います。

● わかもの流域じまんコンテスト2025



主催：一般社団法人流域ぶらっとフォーム 共催：富山市、富山県立大学
後援：富山県、国交省北陸地方整備局富山河川国道事務所、環境省中部地方環境事務所、富山市教育委員会
協力：東京大学、中央大学、岐阜大学、宮崎大学、福島大学、株式会社たがやす、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま、
「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（SOLVE for SDGs）」

流域をめぐる あなたの探究を 届けませんか。

#河川 #流域 #暮らし #防災
#流域と水といのちとの関わり
#水のめぐみ #土地の歴史・文化

一般社団法人流域ぶらっとフォーム

コンテンツ日時

わかもの流域自慢 コンテスト2025

7/26(土) フォーラム 11:00～16:00
コンテスト 13:40～15:20

ユウタウン総曲輪・ウエストプラザ
〒930-0083 富山県富山市総曲輪3丁目9-3

「流域ぶらっとフォーラム2025～水とくらしは、どうつながってる？みんなの流域じまん～」の一貫で、流域や防災、環境、水と暮らしなどをキーワードに活動している「わかもの」の成果を発表するコンテストを開催します。

 POINT1／	 POINT2／	 POINT3／
自然とのつながり 流域を知ることで、身近な自然の大切さをしり、見つめ直すきっかけにすることができます。	人とのつながり 全国で活動する仲間と出会い、探求していく過程の中で、新たな視点や協働の可能性を感じることができます。	研究者とのつながり 研究者と直接ふれあい、探究を深めるきっかけにでき、専門的な意見を聞いたり、自分の考えを伝える体験ができます。

活動③ブース出展

行政・高校・大学・市民のみなさんが、それぞれの立場から参加されました。実験、ジオラマ、流域検定、先端研究のポスター展示など、幅広いアプローチで流域を知り、

学べるブースが並びました。初回から出展し一緒にイベントをつくってくださっている富山市や富山県、国交省のみなさんも、回を重ねるごとに工夫を凝らした展示を実施されています。今年は「流域のめぐみ」を楽しめる飲食ブースも登場しました。立ち寄った方がそれぞれ関心のある場所で足を止めて参加される姿が印象的でした。（ランニング途中に富山市副市長も立ち寄ってくださいました！）



写真：ブース出展の様子

当日スケジュール

ステージとブース出展の2つの形式で構成しており、11時から16時までのイベントを開催いたしました。普段あまり意識することのない「流域」について身近に感じてもらえるような場となりました。例えば、ステージでは「漫談」「コンテスト」形式で新たにプログラム構成し、ブースでは「触ったり出来るジオラマ」「防災グッズの展示」など工夫が凝らされた出展があり、参加者の学びや生活との繋がりを感じてもらえる機会となりました。



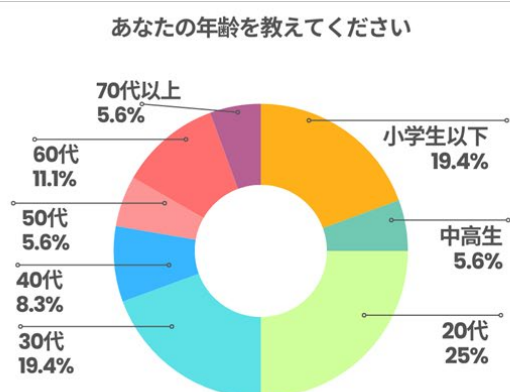
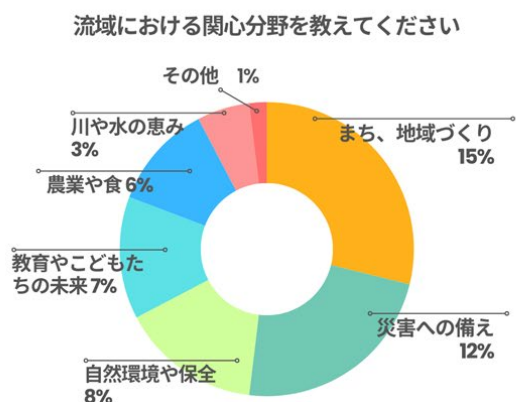
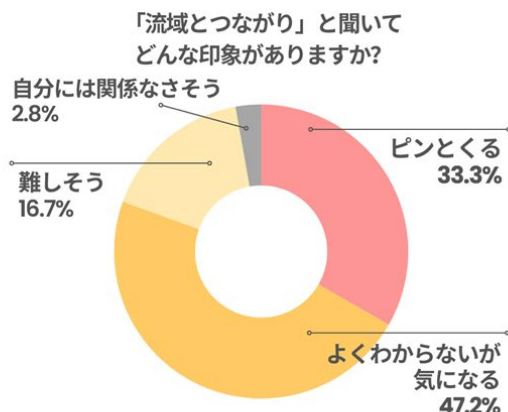
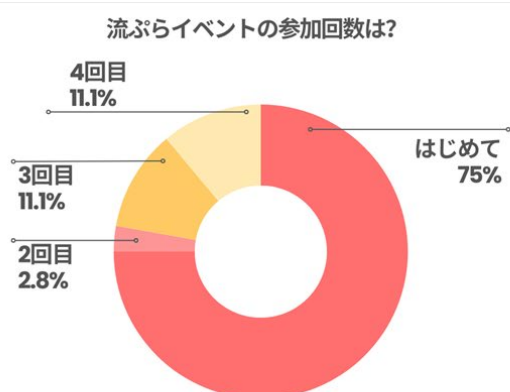
会場レイアウト

ユウタウン総曲輪を通り抜ける形でブースが配置されているため、それぞれの参加者が気軽にぶらっと様々なブースに立ち寄っていただけました。また、ステージでは研究者や学生の取り組みを聞くことが出来る場としてじっくりとお話を聞く参加者もいらっしゃいました。



参加者アンケート結果

参加者へは、流ぷら相談窓口（当日設置ブース）にて右写真にシールを貼ることでご回答をいただきました。小学生以下のお子さんから 70 代以上までの幅広い年代の方に参加いただき、その中には、初めて参加の方もいれば 4 回以上参加されている方もいました。



○総括（イベントの成果と次年度への展望）

本イベントでは、流域ぷらっとフォーム事務局、研究者、学生、行政が自ら企画・運営に関わり、ステージ発表やブース出展を行いました。開催場所は、ユウタウン総曲輪という商業施設のアーケードの構造を活かし、お祭りのような形式をイメージして企画を行いました。これにより、地域の方々が通り抜けの際に足を止め、興味を持って参加される場面も見られました。

「ともにつながる」という趣旨のもと、富山県外から中高生や大学生、研究者も運営や発表に関わり、地域や立場を超えた交流の機会となりました。特に中高生にとっては県外で発表すること自体が貴重な経験であり、他地域の多様な声を聞くきっかけともなっています。コンテストでの表彰もあり、これからの学びや活動へのモチベーション向上にもつながっています。地域の方々からは「また来年もやるんですか？」という期待の声も聞かれ、今後の活動への関心の高さがうかがえました。

研究や発表は熱意あふれる内容ばかりで、参加者のみならず、行政の方々や研究者など企画・出展関係者同士での互いの刺激となり、次の活動へ意欲が感じられました。イベントの締めくくりとして企画した懇親の場でも、他地域の学生同士が自然に交流する場面が見られ、流域治水の活動の間口を広げる地域活動としても今後も良い繋がりが広がることが期待されます。

最後に、公益財団法人旭酒造記念財団様のご支援により、本イベントを成功裏に終えることができました。ここに記して謝意を表します。